

「介護関連施設の商品・サービスニーズ」

～現場インタビューレポート～

ヘルスケア・プロジェクト 山中 淳一

介護施設(5施設)を周り、介護施設長さん、介護長さん、リハビリ長さんの現場のニーズをいくつか聞いてきましたので、レポートを読んでくださっている皆様に共有いたします。

◆ 離床センサー、排尿センサー

現在の、離床センサー、排尿センサーは、サービス提供側の本音をくみ取っていない。例えば、排尿センサーの場合。ヘルパーさんがたくさんいて、センサーが鳴った際にケアできるなら良い。現実はそうではない。おむつ交換を時間で設定して実施している。その場合は、時間前にセンサーが鳴っても困る。人がいないと交換できない。交換できないと、利用者側の不満をおおる形となる。そういったセンサーは、導入にあたって、ヘルパーさんの反発をかう形となり、導入には至らない。

◆ 腰などに装着するタイプのロボット

高額である。ロボットを導入するお金があるのであれば、体力のある人を雇った方が良い。様々な動きを想定した介助支援ロボットがあればよいのであろうが、動作が限定されると使用しづらい。

◆ リフター

開発側(提供メーカー)は、便利ですよ、という。しかし、日本ならではの機械アレルギーがあることが理解できていない。難しい話ではなく、自分の親がロボットに運ばれているシーンを思い浮かべてみると良い。施設内で職員がそこにいるのにも関わらず、自分の親がロボットに運ばれている。そうされたら嫌、感じ悪い、という感覚が開発側に無いのでは。

施設内にはあるけれども使わない。それは、機器を使わなくても、現在介護業務が出来ているから。今の機械は、2手間かかる、という感覚。機械のセッティングに時間がかかるので、人がやった方が速い。そこに改善の余地がある。

◆ 消臭システム

窓がある部屋は良い。窓がない部屋の消臭に課題がある。出す消臭ではなく、吸い込む消臭があると良い。

◆ 感染症予防ソリューション

施設内での感染の拡がりは、施設にとっての解決しなければならない課題。菌が見えるスプレー等があると嬉しい。

◆ 教育ソリューション

認知症の事例検討ができる、教育キッドがあると嬉しい。

◆ 起き上がり機器

起きる⇒歩行、食事の流れを考えると、大事なことは“起きる”ということ。高齢者の人は自宅では、寝て過ごしてしまうことが多い。そうすると食が細くなり、体力がなくなり、動く意欲が低下する。“起きる”ための機器はできないものか。

◆ 個人情報保護法

地域包括ケアに取り組みたい。しかし、要件を満たせばやってよいとなるが、例)末期がんで、承認とるのか、人の命に係わる場合はよい、とあるが、その下にガイドラインにはおちていない。情報を共有できない。民生委員も困っている。

「介護関連施設の商品・サービスニーズ」

～現場インタビューレポート～

ヘルスケア・プロジェクト 山中 淳一

◆ リハビリ機器

健常者向けの機器はあるし、リハビリが必要な人向けの機器もある。誰か人がいないと使えない機器が多い。“一人で乗り降り”できる機器があると嬉しい。そういった観点で安全性を考慮した機器はほとんどない。

また、リハビリなど、運動は集団で実施すると、お互いが励みとなり、効果も高い。一人でやるのではなく、集団でやる、ことを想定したものづくり、がされていると良い。例えば対面式とか。基本的に壁際に並べておく、横並びで設置する、が前提になっている。

在宅で使うことを想定していない機器が大半。人がそばにいないと使えない機器が多い。施設で指導をしながら使うことが前提となっている。素人の方は使えない、使いづらい。

規則的で大きな動きをする機器が多い。不規則な動きをする機器、ランダムな動きをする機器があっても良い。運動パターンを複数提供できる機器があっても良いのでは。腰回りや股関節周りには、そういった機器があると良い。高齢者の体幹を鍛える、小さな運動を、ゆっくり、細かい動きで支援する機器。見た目の負担感は小さく、でも、運動をしたというやっただ感を出すものが良い。

リハビリ前の準備にフォーカスをあてたものが無い。これから出前型リハビリが増えてくると思うが、在宅で使えるような、関節を温めるホットパックがあると良い。自宅で自分で運動をする際にも、関節を温めてからの方が怪我のリスクが小さくなる。

◆ 人不足を補うためのシステム、記録システム

楽になることには賛成するが、介護以外の付帯業務が楽になると良い。国の申請を楽にできると嬉しい。助成金の1割でコミッションで代行だと嬉しい。現在、様々な助成があるが、大きな法人しか申請をせず、小さな法人は申請の手間暇を考えるとやりきれず、結果としてもらえない。

従来よりも、記録・用紙づくり業務時間が増えている。動きながら使えること。ポイント、ポイントで使えると良い。

タブレットや記録システムは、今のところ、個人向けしかない。例えば、15人が同時に記録できるものがあればよい。欲をいえば、30人程度の記録ができるとうい。〇〇システムで、請求業務までできる、等といわれると、正直いらぬ。今のシステムを入れ替えるだけのメリットがない。

記録システムがつながると嬉しい。転記作業が2～3回。連絡ノートに記録されると良い、同じ内容を何度も書き写すとミス発生リスクが高まる。月7万円高い→月2万円でない。システムがついてくるから重い。

以上です。機器・サービス開発の一助となれば幸いです。